

軽種馬草地管理の改善 ～良質粗飼料安定確保～

(課題番号 5、11)

◆活動年次：令和4年度

◆対象：草地管理改善志向農業者（新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町）

1 課題の背景

- 軽種馬生産は日高管内の基幹産業で、産出額は約250億円で全体の55%を占める（図1）
- 牧場数は年々減少しているが、繁殖牝馬飼養頭数および生産頭数は増加（図2）
- 市場における販売価格が好調なこともあり、1戸当たり飼養頭数は増加（図3）

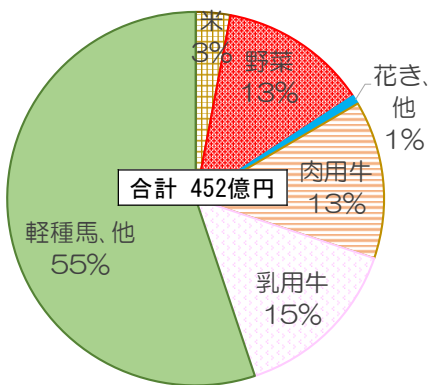


図1 平成30年日高の農業産出額 (ひだかの農業2020)

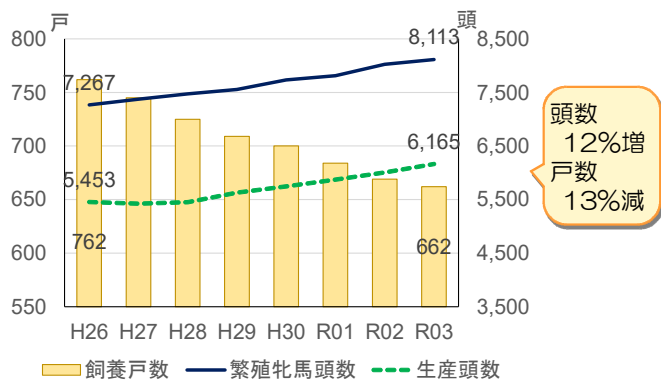


図2 飼養戸数および頭数の推移

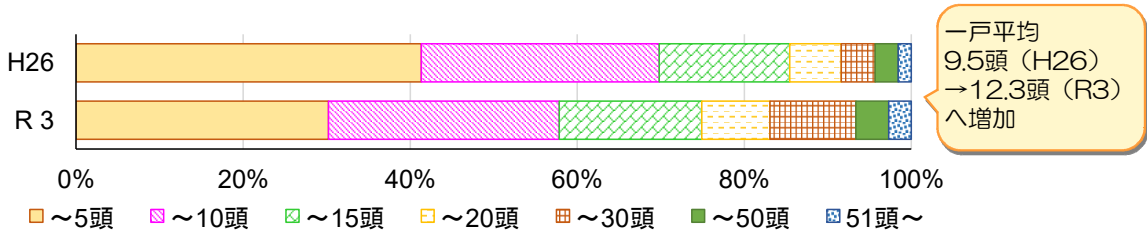


図3 日高管内の飼養規模別牧場数割合の変化

<軽種馬草地の現状>

- ・ 飼養頭数の増加により放牧地面積に余裕がなく、計画的な更新や雑草対策が難しい
- ・ 裸地の増加や強害雑草侵入による植生悪化や草量が低下
- ・ 天候に左右されやすい乾草調製主体が多い



放牧地全体に広がった黒穂

良質粗飼料安定確保に向け、
放牧地および採草地管理の重要性が増している

2 活動の経過

- 土壌分析結果に基づく施肥設計とその後の追跡（継続中）
(分析→施肥設計→施肥→草地確認→分析→結果確認→施肥設計→……)
- 更新および追播（は種量、時期）に関する支援と情報提供
- 放牧地および採草地の雑草対策支援
- 排水対策の情報提供
- 若手経営者・後継者向けのフィールドでの研修会
- 馬糞堆肥の活用に関する意見交換会



放牧地のルートマットを確認

3 活動の成果

肥料価格の上昇もあり、土壌分析結果を参考にした肥料銘柄選定や施肥量、施肥のタイミングを検討する意識が強くなった。

数年間実施していなかった分析を行う農業者や、牧草の種類および雑草との見分け方に興味を持つ農業者もでてきた。

<具体的な実践項目>

- 生育の違いに応じて草地を細分化した土壌分析の実施
- 土壌pH維持のため炭カル施用
- 放牧地を休ませての雑草処理（ギシギシ、タンポポ）
- 追播



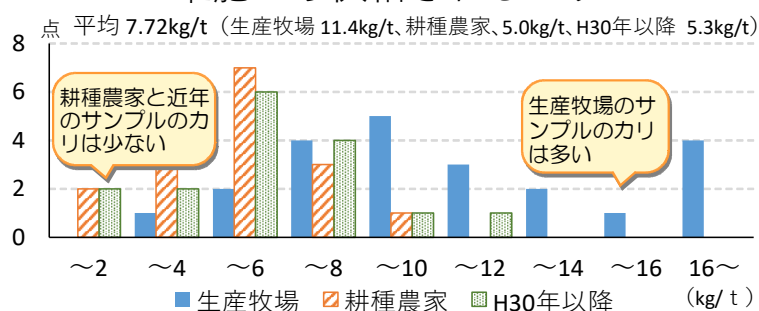
<堆肥の活用>

	点数	馬糞堆肥の成分（現物中%）								堆肥から供給される肥料分（kg/t）		
		水分	EC	pH	TN	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	CaO	TN	P ₂ O ₅	K ₂ O
H19	38	66.9	2.8	8.5	0.75	0.81	1.25	0.47	0.32	1.50	1.63	8.73
生産牧場	22	68.4	3.6	8.8	0.80	0.90	1.63	0.49	0.31	1.60	1.80	11.44
耕種農家	16	67.5	1.7	8.0	0.68	0.69	0.72	0.45	0.34	1.37	1.39	5.01
H30	5	71.6	4.1	8.0	0.76	0.59	0.62	0.37	1.20	1.52	1.17	4.31
R1	5	66.5	7.1	8.4	0.68	0.61	0.98	0.37	1.89	1.37	1.22	6.83
R2	5	67.3	2.5	7.7	0.73	0.62	0.62	0.45	1.00	1.46	1.24	4.33
不明	1	76.7	13.3	9.1	0.61	0.39	1.15	0.21	0.51	1.21	0.78	8.05
平均	54	67.9	3.5	8.4	0.74	0.75	1.10	0.45	0.61	1.48	1.50	7.72

- 生産される場所、堆積年数で成分の違いが大きい
- 地域内で有効活用するため、耕種農家も含めた現状把握と課題整理が必要

※堆肥から供給される肥料分は、乳用牛の肥料換算係数を用いて算出（北海道施肥ガイド2020）

堆肥から供給されるカリ



<草地管理改善技術

実践農家戸数>

地域第一係	1戸→2戸
地域第二係	2戸→2戸
合計	3戸→4戸

4 今後の対応

- 施肥設計草地の生育および土壌分析値の追跡確認
- 雑草対策および草地の植生改善支援
- 透排水性改善対策（情報提供、事例紹介）
- 馬糞堆肥の活用に向けた検討

